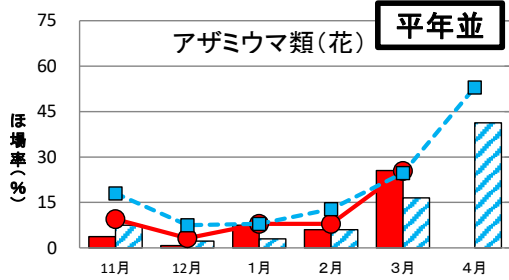
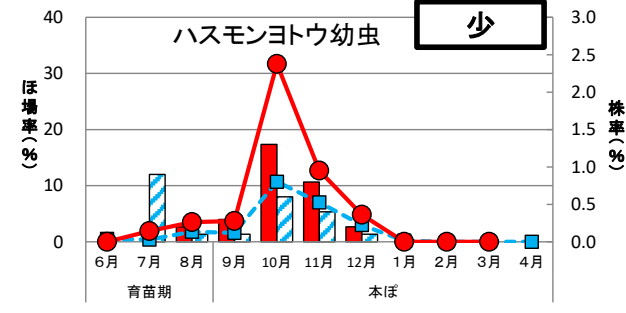
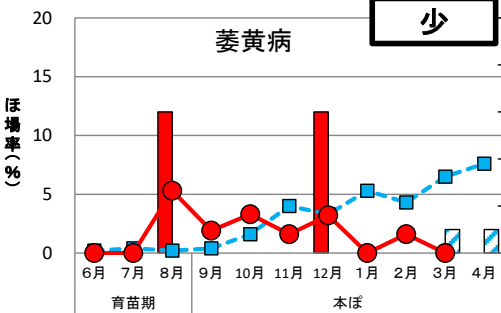
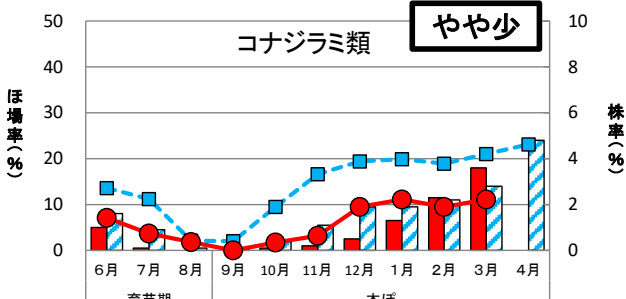
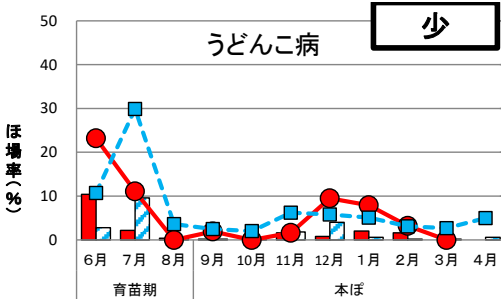
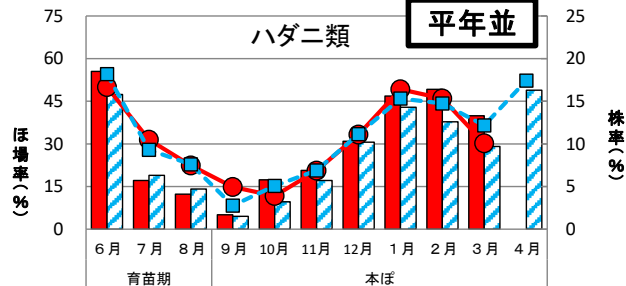
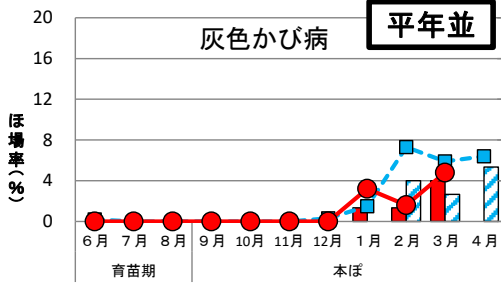
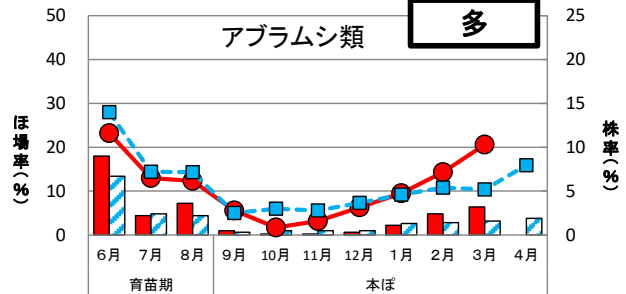
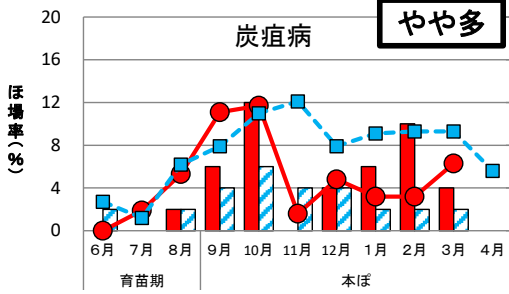


# いちご病害虫情報第10号 (3月)

令和8(2026)年3月13日  
栃木県農業総合研究センター  
環境技術指導部

## ■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数 63 か所】



■ 本年 株率    ■ 平均 株率  
● 本年 ほ場率    ● 平均 ほ場率

※ほ場あたり25株調査

※株率(%) : 発生株数 / 調査ほ場数 × 25株

※ほ場率(%) : 発生が確認されたほ場数 / 調査ほ場数

### ■ 今月の防除ポイント

#### — アザミウマ類の対策 —

気温の上昇に伴い増加しやすい時期です。予防を主体に管理しましょう。

- 1 施設内外の雑草は発生源・増殖源となるため除草を徹底する。
- 2 花を良く観察して、アザミウマ類が見られた場合には、マッチ乳剤(I:15)を散布する。
- 3 花の1割以上にアザミウマ類が見られる場合には、ディアナSC(I:5)等を散布する。

※ 病害虫防除のポイントNo.19 イチゴのアザミウマ類

アザミウマ薬剤感受性検定結果①、

②を当センターHPに掲載中。

## ■ 今月のトピックス 気温上昇期の病害虫対策と親株管理

### 気温上昇に伴う病害虫の増加対策と適期収穫の徹底

#### 1 アザミウマ類の早期発見と飛び込み防止

花を良く観察して、アザミウマ類が見られた場合には薬剤を散布する。成虫の侵入を防ぐため、施設開口部の防虫ネットに隙間がないか点検する。

#### 2 雑草・残渣の除去による発生源対策

施設内外の雑草は病害虫の発生源・増殖源となるため除草を徹底する。

#### 3 適期収穫を徹底し、過熟果を病害虫の発生源にしない

気温の上昇により果実肥大・着色が早まり、収穫遅れによる過熟果が増えると病害虫の発生源となる。過熟果は速やかに除去し、ほ場の衛生状態を保つ。

#### 4 飛び込みとハウス内増殖の両面を踏まえたモニタリング

3～4月は外部からの害虫の飛び込みと、越冬個体の再増殖が同時に進む時期である。花や葉裏をこまめに観察し、病害虫の発生初期の段階で対応する。

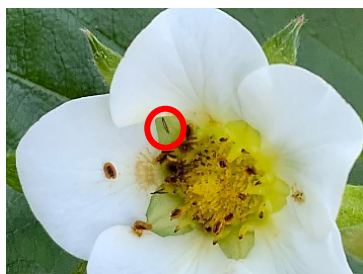


写真1 アザミウマ寄生花  
(赤円がアザミウマ成虫)



写真2 花の被害



写真3 果実の被害

### 親株の管理 (健全苗を育成するための基本対策)

親株ほ場に病害虫を持ち込まないことを最優先に、環境整備と予防管理を徹底する。

#### 1 培土・育苗資材の衛生確保

培土や育苗資材は、必ず消毒済みで病原菌に汚染されていないものを使用する。

#### 2 雨よけ・水はね防止管理

雨よけを基本とし、点滴チューブ等の水はねが少ない方法でかん水する。

#### 3 施設内外の環境整備

排水対策、除草などを徹底し、病原菌の発生源や害虫の増殖源を減らす。

#### 4 防虫ネットの展張・管理

施設開口部に防虫ネットを設置し、害虫の飛び込みを阻止する。

#### 5 定期的なモニタリング

ほ場内を定期巡回し、病害虫の発生初期の段階で対応する。

#### 6 薬剤感受性低下防止のためのローテーション散布

必ず RAC コードの異なる薬剤をローテーションで使用する。

詳細は、農業総合研究センター環境技術指導部防除課 (Tel028-665-1244) までお問合せ下さい。病害虫情報発表のお知らせは「[農業総合研究センターホームページ](#)」、「[栃木県農政部 X](#)」でご覧いただけます。

